

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2003.11.9 No.8

北海道ボランティア・レンジャー協議会

二次林とは

瑞穂の池から瑞穂連絡線を歩いてくると、「二次林」についての説明板を目にすることができます。このことに関して、関連する知識を持つと森の見方も変わってくるかも知れません。

森林を大きく分けると、人工林と自然林に分けられます。人工林はご存じのように人間がある目的をもって積極的に管理をおこなっている森林で、林業と木材生産のために、トドマツ、エゾマツ、スギなどの植林や公園の植栽などがあげられます。

これに対して、自然林は人間の管理を受けずに自然状態におかれた森林です。この自然状態とは森林植生のしくみや構造が時間とともに移りかわっていく現象がともない「植生遷移」と呼ばれていますが、ふつう数十年から数百年という単位を指します。

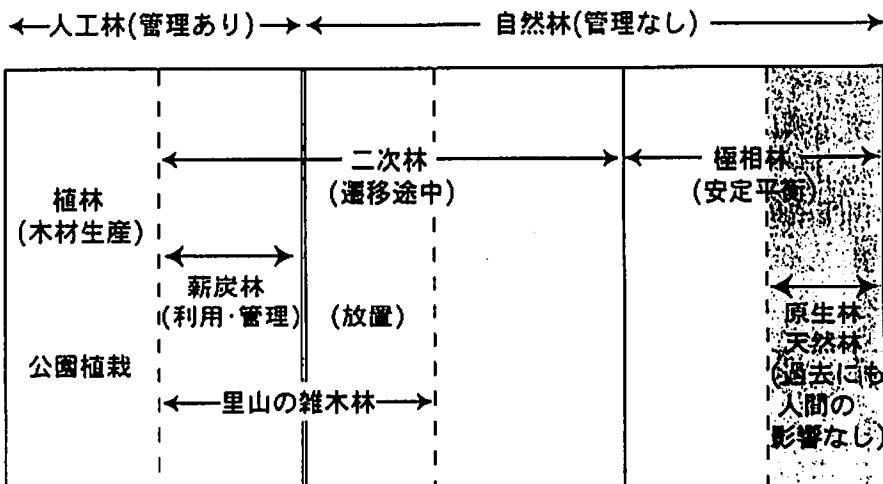
標題の二次林とは下図を見ていただければわかるように、自然林という範疇の中での遷移途中の状態といえます。それではなぜ「二次」なのでしょう。それは植生遷移の出発の状態の違いからきています。遷移には一次遷移と二次遷移があります。

一次遷移とは火山噴火などによる溶岩原、海底の隆起した土地、氷河が後退して現れた地表などからスタートします。ですから森林形成まで数百年という時間を要します。

二次遷移は台風による大規模な倒木被害や山火事、あるいは人間による伐採などで、もともとあった地表の植物が取り除かれ、裸地ができたときに起こります。この場合は地中に残っている種子の芽生えや飛んで来た種子、また地下茎、切り株からの萌芽によりすぐさま植生の回復が始まりますので、森林形成は数十年単位の時間で進んでいきます。このように二次遷移の初期に現れる陽樹を中心とした森林を二次林と呼ぶことがおおいのです。

野幌森林公園内がどのような理由により、二次林が形作られたか、その原因を推測して見るのもおもしろいですね。

森林のタイプ分け



観察会

野幌の森の広葉樹の多くは葉を落とし、冬の準備に入っています。林床の野草も多くは枯れていますが、よく見ると果実となっている状態を観察することができるでしょう。特に、ふれあい交流館周辺では帰化植物などの乾果を観察してみましょう。

木々の枝先にも、ホオノキ、アズキナシ、サワシバ、キタコブシ等の果実がついていて冬の間の野鳥の餌になります。ノリウツギやツル性植物のツルアジサイ、イワガラミの飾り花がドライフラワー状になっている様は冬の到来を告げているかのようです。

葉が落ちた森は見通しがよくなり、野鳥の姿を見つけるのが容易になります。シジュウカラ、ハシブトカラ、ヒガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、シマエナガ等が混群を作っていますが、この集団に出会うと一時を忘れてしまいます。また、目をこらすと幹を登る地味な姿のキバシリの姿を見つけることもできます。コツコツと木の幹をつつく音を追っていくと、そこにはアカゲラ、コゲラの姿が見られるでしょう。



カケス

葉の落ちた森の上をフワフワとカケスが飛んでいるのを目します。本州に生息しているカケスは頭が白いまだらですが、北海道のカケスは頭が赤褐色でミヤマカケスと呼ばれる亜種です。

鳴き声はご存じ、おせいじにもきれいな声とは言えません。「ジェージェー」「ギャー」というしわがれた声で鳴きますが、小鳥類やノスリ、クマタカなどの猛禽類の声、ネコの鳴き声など様々な鳥獣類の真似声の名人です。オヤと思うことがあります、そのうち「ジェージェー」と地声をだすので正体がばれます。

種子や昆虫類、ネズミなどの小動物も食べますが、秋にはミズナラのドングリを貯食したりします。

キクイモ

晩秋の季節に背丈のある茎のさきにヒマワリを小さくしたような黄色のキクイモの花が咲いています。

菊に似た花をつけ、根に多くのイモをつけることからキクイモの名がついています。このキクイモは北アメリカ原産の帰化植物で、俗称ブタイモ・イモギク・イットウイモなどと呼ばれます。ジャガイモより小さな塊茎を持ち、繁殖力がおう盛で道端、荒れ地、畑のまわりなどいたるところに群生します。

文久年間にすでに渡来したといわれますが明治以降に食用、アルコール製造などの目的で本格的に導入され、各地で栽培されたり、品種改良も試みられましたが、各地で逸出して雑草化してしまいました。塊茎にはイヌリンを多く含み糖尿病患者の野菜になります。

12月の観察会は?

師走になると、毎日の生活がなんとなく慌ただしくなりますが、気分転換、冬の森を歩いてみましょう。静かな森にはっとするはずです。防寒の対応をしっかりと。

・12月の森の観察会

12月18日(木) 10:00~12:00 野幌森林公園 開拓記念館前集合